

オープニング対談

西川美和監督×川本三郎氏(映画評論家)

「映画が名作になるとき」

7/4(土) 19:20~(終了予定20:40)

昨年の日本映画は、『歩いても歩いても』『ぐるりのこと』『『闇の子供たち』

『実録・連合赤軍 あさま山莊への道程(みち)』『おくりびと』『トウキョウソナタ』…どれもが世界の映画祭でグランプリをとってもおかしくないほどのレベルの高さを示し、黒澤、溝口、成瀬、小津、木下たちの日本映画の黄金期を彷彿させるものがあった。その勢いは、西川美和監督の『ディア・ドクター』を筆頭に、本年もまちがいなく続いている。

このミニシアター作品を中心とする日本映画の充実ぶりの特徴は、川本三郎さんが「現代映画、その歩むところに心せよ」(晶文社刊)で指摘するように、現代という混乱した時代の中に生きている“なまもの”であることだ。時代を敏感に感じとっている映画作家たちの熱い思いが伝わってくることだ。これらの多くは、数十年後に、

日本映画の名作として語り継がれていくことになるだろう。

しかし、今はただひたすら「熱い」うちに見て、その感動を語り合い、ミライへ向けて、それぞれの心の記憶として、しっかりと刻み込んでおきたい。



写真左:
西川美和監督
(写真／小林キユウ)

写真右:
川本三郎氏

ゆれる (2006年 119分 35M)

監督・脚本／西川美和
出演／オダギリジョー 香川照之 真木よう子

2006年度キネマ旬報ベスト・テン脚本賞受賞
助演男優賞(香川照之)受賞
日本映画ベスト・テン第2位。



東京でカメラマンをしている猛は母の一周年忌で帰省する。彼は実家のガソリンスタンドを継いだ独身の兄の稔や、幼なじみの智恵子と再会し、3人で近くの渓谷に行くことにする。猛が離れている間に、稔と吊り橋の上にいた智恵子が転落する。事故だったのか、事件なのか。裁判が始まられるが、次第にこれまでとは違う一面を見せるようになる兄を前にして猛の心はゆれしていく。やがて猛が選択した行為は、誰もが思いもよらないことだった。

<料金>

●オープニング対談 ¥500

『ゆれる』『ディア・ドクター』の内容に関わる話になりますので、2作品をご覧になってからご参加下さい。トーク券のみ、6/27(土)～発売いたします。

●クロージングシンポジウム+上映 ¥1500 (限定チケット/キノ会員証ご提示で¥1200)

●『不灯港』プレミア上映 ¥1500 (限定チケット/キノ会員証ご提示で¥1000)

●その他の各プログラム(当日のみ) ¥1000 (キノ会場では、ピントージ手帳お使いいただけます)

7/4(土)	19:20~	オープニング対談 西川美和監督×川本三郎氏	11(土)	20:45~	北海道インディペンデント 映像フェスティバル選抜作品+1
	20:45~	『ゆれる』西川美和監督ご挨拶		12(日)	(作家トークあり)
5(日) 6(月) 7(火) 8(水) 9(木) 10(金)	20:45~	『ジャーマン+雨』	13(月)	20:45~	『不灯港』プレミア上映+内藤隆嗣監督トーク
			14(火)	20:45~	『PASSION』
			15(水)	20:45~	『ちえみちゃんとこくんぱっちょ』+『不惑のアーディゴ』
			16(木)	18:45~	クロージングシンポジウム+『ちえみちゃんとこくんぱっちょ』『不惑のアーディゴ』上映 ●パネラー／横浜聰子監督、井上都紀監督ほか
			17(金)		

会場／シアターキノ 狸小路6丁目南3条グランドビル2F／011-231-9355

7/4(土)	10:30~	北海道インディペンデント 映像フェスティバル選抜作品+1 (作家トークあり)
	12:30~	ニューシネマワークショップ 選抜プログラム
	15:00~	前田弘二 作品特集
	17:00~	ニューシネマワークショップ 選抜プログラム

会場／ATTIC 南3西6長栄ビル4F／011-676-6886



21世紀 日本映画のミライへ――

ゼロ年代映画祭

7/4(土)～17(金) シアターキノ、ATTICにて



主催／NPO法人北海道コミュニティシネマ・札幌 問合せ／011-231-9355

後援／札幌市 札幌市芸術文化財団 札幌市立大学 ●芸術文化振興基金助成事業

協力／シアターキノ、リトルモア、ndjc:若手映画作家育成プロジェクト、ぴあ、クロックワークス、東京藝術大学、ゆうばり国際ファンタスティック映画祭、映画美学校
ニューシネマワークショップ、北海道インディペンデント映像フェスティバル実行委員会



『ウルトラミラクルラブストーリー』の天才監督 ウルトラミラクル横浜聰子ワールド

ジャーマン+雨

(2006年 71分 DV)

監督・脚本／横浜聰子
出演：野寄好美 藤岡涼音 ひさうちみちお

よし子が町にやってきた。16歳、ゴリラ顔、強引、わがまま、愛されるキャラクターでもない。身寄りもなく、ぼろぼろの平屋でひとり暮らし。学校にも行かず、植木職人見習いとして働いている。彼女はたて笛で、周りの人間たちのトラウマをモチーフに曲を作っている。田舎町、四葉のクローバー、ぼとん便所、病院で眠るダンゴムシ、やり手の女子高生、汲み取り屋の変態オヤジ、本気のドッジボール、ドイツ人…よし子は周囲の事柄すべてを突き抜ける。悩んでいる振りなどせず、むきだしのまま、現実に向かっていく。



ちえみちゃんとこっくんぱつちょ

(2005年 50分 DV)

脚本・監督・編集／横浜聰子
出演：鈴木由美子 森下法雄 工藤麻奈美

「青森の春は汚い」—。雪解けの季節が訪れた青森に一人ひっそりと暮らすのり子のもとに、長年会っていない幼なじみのちえみから、結婚式の招待状が届く。そこへ、東京に出稼ぎに出ていた父が女を連れて帰って来た。突然始まった三人での生活にも動搖することなく、淡々と日々を過ごすのり子だったが、ちえみとの再会は、どこかぎこちない。二人の間にはある過去が存在していたのだった…。



内藤隆嗣 監督

1981年生まれ。
宮崎県出身。



2005年東京都立大学・理学部数学科卒業。在学中1年休学、30カ国を放浪の末、帰國し復学。卒業後制作した自主映画『MIDNIGHT PIGSKIN WOLF』がびあフィルムフェスティバル2006にて企画賞(TBS賞)を受賞し、第18回PFFスカラシップの権利を獲得した。

横浜聰子 監督

1978年生まれ。
青森県出身。



横浜の大学を卒業後、東京で1年間程OLをするも、映画を撮りたいと一念発起、映画美学校に入学。卒業制作の『ちえみちゃんとこっくんぱつちょ』が06年第2回CO2オープンコンペ部門最優秀賞受賞。CO2からの助成金を元に長編1作目となる『ジャーマン+雨』を制作。同作で第3回CO2ネイスト大阪市長賞を受賞。自主制作映画としては異例の全国劇場公開される。最新作『ウルトラミラクルラブストーリー』は待望の商業映画デビュー作となる。

ゆうばり国際ファンタスティック映画祭 第1回スカラシップ作品

不惑のアダージョ

(2009年 70分 HD)

監督／井上都紀 出演／柴草玲 千葉ペイトン

神職に身を捧げ生きてきた修道女が、一つの老いを迎えるとともに、自らの性を見つめ直し新たな生き方を受け入れる姿を、柔らかな音楽とともに繊細に描きます。



井上都紀 監督

1974年生まれ。
京都出身。



武蔵野美術大学油絵科卒業。舞台製作スタッフ、俳優の付き人を経て、ニューシネマワークショップにて映画制作を学ぶ。竹中直人監督『サヨナラCOLOR』の監督助手等を経験。『大地を叩く女』で08年ゆうばり国際ファンタスティック映画祭グランプリを受賞。08年札幌国際短編映画祭ノミネート他、国内外の映画祭で高く評価され、『不惑のアダージョ』で長編デビュー。

クロージングシンポジウム + 上映

7/17(金)18:45～(終了予定22:30)

限定チケット¥1500 キノ窓口にて発売中(キノ会員証ご提示で¥1200)

18:45～ 上映



『ちえみちゃんとこっくんぱつちょ』(横浜聰子監督作品)

『不惑のアダージョ』(井上都紀監督作品)

20:50～ ミニレクチャー 森直人 氏(映画評論家)

「ゼロ年代映画とは」

90年代ロックが「反抗するものがない、という絶望」を歌ってから十数年が過ぎ、反抗すべきメインカルチャーが存在せず、サブカルチャーの島宇宙が乱立する不可能性の現代にあって、ゼロ年代映画はくここではない、どこかに行くのではなく、むしろ逆にくいま、ここを掘り下げようとする。ゼロ年代映画の可能性を探つてみよう！(宇野常寛さんの批評を参考にしました／キノ)

21:20～ シンポジウム「ゼロ年代映画の想像力」

●パネラー／横浜聰子監督／井上都紀監督／中島岳志北大大学院准教授
●司会／森直人氏

『フラガール』の李相日監督、『ゆれる』の西川美和監督、06年のベスト1.2コンビを代表とする二人に続けとばかりに、次世代映画作家たちが自主制作をはじめ、多様な「場」から、次々と生まれてきている。そこには、骨太の物語性の復権と共に、映画作家としての強固な意思を感じられて、なんとも嬉しく、心強く、応援したい気持ちでいっぱいだ。

キーワードは「想像力」。映画を志すものにとって最も大切な想像力を、30代の監督と30代の論客たちと一緒に、21世紀日本映画のミライへ向けて語り合いたい。

中島岳志 氏

1975年生まれ。
大阪出身。



大阪外国语大学でヒンディー語を専攻し「中村屋のボース」で大佛次郎賞受賞。現在、北海道大学公共政策大学院准教授で専門は南アジア地域研究だが、地域や商店街の場作りやホームレス支援、反貧困ネットワーク等、ロスジェネ世代の行動する学者として、多くのメディアで発言している。

第18回PFFスカラシップ作品

不灯港

ふとうこう (2008年 101分 35ミリ)

監督・脚本／内藤隆嗣

出演／小手伸也 宮本裕子 ダイヤモンドユカイ 麻赤兒

小さな港町の獵師・万造は、来る日も来る日も沖へ出て網を曳く日々。平屋の一軒家に一人暮らし。もちろん、独身。そんな孤独な男・万造が、コケテイッシュで都会的な魅力を持つ美津子に出会い、一目ぼれ。彼女のために持つものすべてを投げうつても、彼はこれまでの人生で一番幸せだった。しかし幸福な日々は長くつづく訳もなく—。獵師の風貌にダンディな振る舞いの、妙な主人公・万造が放つクセイセリフとズれた会話に、今年1月に行われたロッテルダム映画祭でも場内は笑いに包まれ拍手喝采。万国共通の笑いとダンディズムで見事に日本のカウリスマキ、デビュー！



プレミア上映！
トークゲスト
内藤隆嗣監督

北海道インディペンデント +1
映像フェスティバル 選抜プログラム

軽い十字架

(2008年 34分 DVD)

監督／對馬考哉

男は職が無く、
気の触れた妻と暮らしていた。
「私の神話」をテーマにした作品。



疑似餌

(2008年 20分 DVD)

監督／宇野末

デスクトップメタ芸術。
ヒューと恐れるフリ。
さあ冷ややかに観劇を。DDT！ DDT！



mind of ZAZen/ELECTLEAF

(2008年 5分 DV)

監督／古跡哲平

自身も参加している映像と
音楽のバンド『ELECTLEAF』の
MUSICVIDEO。



カレイドスコープ

(2008年 14分 DV)

監督／千葉あすか

「ねえ、時間のハコ知ってる？」
夏休み最後の日。
煩い嬌声の声。僕の中の君の中で迷い子の僕。



高校生が乗車を妨げたのか

(2008年 8分 DV)

監督／深川東高校放送局

2年前の5月、高校生が列車の
乗車を妨害したのか。
その事件を検証する。



前田弘二作品特集

前田弘二の作る物語は、放し飼いの人間たちが迷い込んだ袋小路の物語だ。07年に都内で一週間の特集上映で1000人を超える観客動員を記録し、08年に『くりいむレモン旅のおわり』で商業デビューを果たした前田弘二。07年『誰とでも寝る女』から最新作『先輩の女』まで、4作品を特集上映。

板金工場で働くシンイチのもとに突如やってきた謎の女、カオリ。カオリはシンイチの先輩・高橋の彼女だと言う。しかし、シンイチは高橋にこっそり電話し確認すると…？
『先輩の女』より 他3作品。

『誰とでも寝る女』(2007年32分)

『恋の裸』(2007年18分)

『遊泳禁止区域』(2007年20分)

『先輩の女』(2008年30分)



ニューシネマワークショップ選抜プログラム

今年13年目を迎えた東京・早稲田の映画人養成機関「ニューシネマワークショップ」の実習作品およびOB作品の中から、PFFグランプリ、ゆうばりグランプリなど高い評価を受けた最近の6作品をセレクション。

はっこう

(2005 28分 DV) 監督／熊谷まだか

主婦の恵は育てて家事に追われる日々。日々のストレスをスーパーにクレームを送る事で晴らそうとするが…。06年PFFグランプリ作品。

蹉跌

(2005 23分 DV) 監督／仁志原了

劇団を辞めた役者サトルとその劇団の演出家テジオ。気まずい空気の中で対峙する二人に、過去の思いが吹き出して来る。

星からビール

(2008 12分 DV) 監督／遠山浩司

団碁好きの兄と彼女、兄の妹と彼氏が集まつた。それぞれの思いが交錯するパラレルラブストーリー。星からビールが飲みたくなる作品。

機械人間、11号。

(2007 23分 DV) 監督／加藤行宏

ハピネス建設の耐震構造により崩壊した近未来・東京。謎を解明するために機械人間11号が出动する。08年札幌国際短編映画祭国際グランプリ作品。

80年ゆうばり国際ファンタスティック映画祭グランプリ

大地を叩く女 (2007 21分 DV)

監督／井上都紀

千春の仕事は精肉店でヒレカツ用の肉をひたすら叩く事。店の息子・暁と隠れて交際している千春はある日、暁の別の女性の影を耳にする。クレルモンフェラン国際短編映画祭他、国内外の映画祭で高い評価を得た作品。新作『不惑のアダージョ』も、本映画祭の別プログラムにて上映。

『大地を叩く女』

